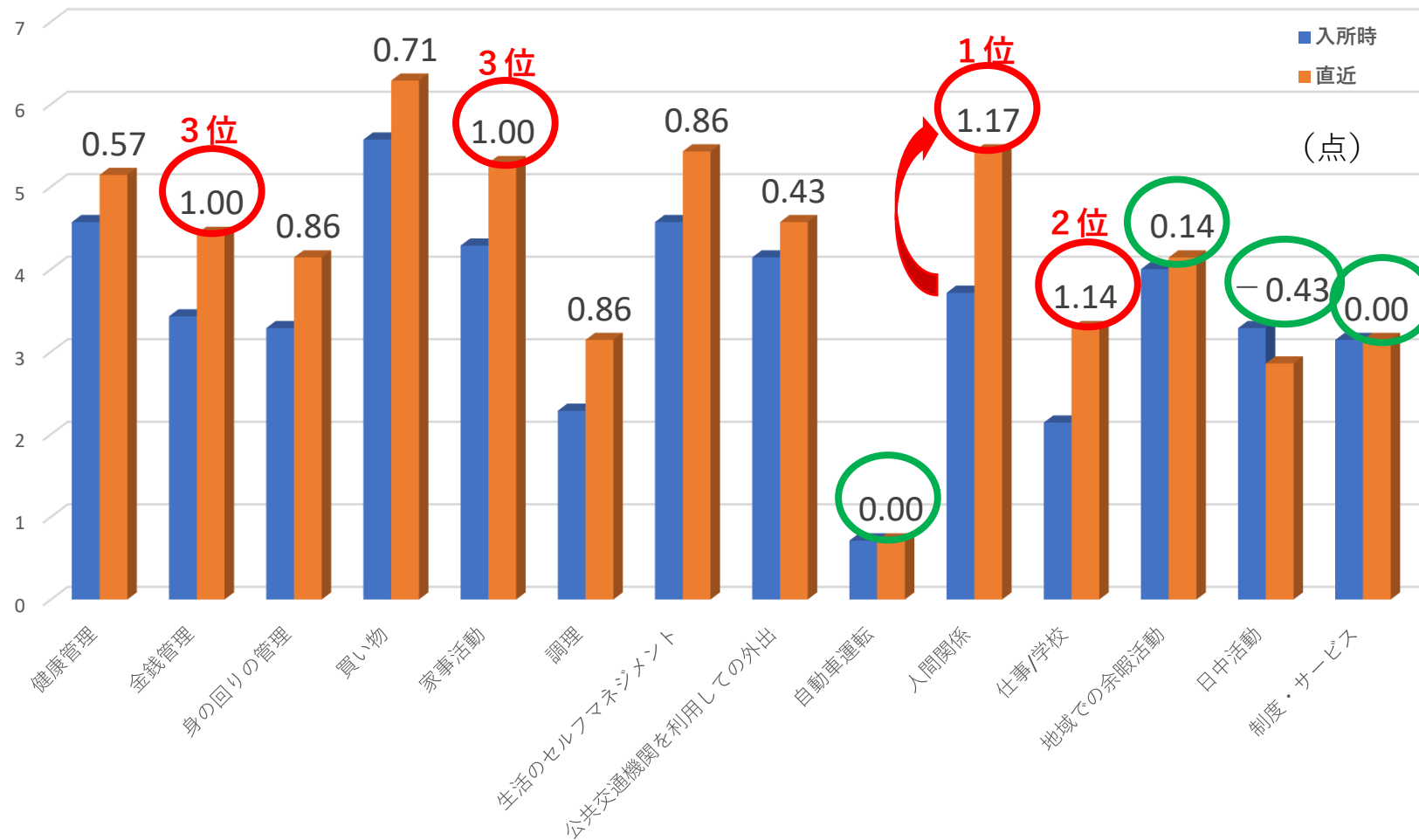


令和7年度 自立訓練事業所あゆみ SIM評価結果と考察

SIM各項目の平均値の利得改善率（対象人数7名）



SIMとは？

社会生活の自立度評価指標（SIM）の概要

（論点1参考資料⑤）

Social Independence Measure(SIM)による社会生活における自立度の評価

- ✓各7～1点の7段階評価（合計91点～10点）
 - ✓項目とその項目選択の判断について（最大項目数13 最小項目数10）
 - 項目には「必須項目」「必須選択項目」「選択項目」の3種がある。
 - ・「必須」は必ず採点する。
 - ・「必須選択項目」は必ずいずれか一方を選択し、採点する。
 - ・「選択項目」のみ必要に応じ、採点を除外できる。
- ※除外できるものは、生活環境や進路から、本人と関係しないとされたもののみとなる。
単に本人の意思により判断するのではなく、多様な観点から判断されたものに限る。

自立	7点	継続自立
	6点	自立
部分的支援が必要	5点	見守り 限定した活動状態
	4点	最小支援
	3点	中等度支援
全面的な支援が必要	2点	最大支援
	1点	全面支援

大分類	毎日の社会生活を維持するための項目							社会の一員として積極的に参加するための項目					共通項目	
項目	必須	必須	必須	必須	選択	選択	必須	必須選択 (1つを選択)		必須	選択	必須	必須	必須
	1 健康管理	2 金銭管理	3 身の回りの管理	4 買い物 (買い物先までの移動を除く)	5 家事活動 (調理含まず)	6 調理	7 生活のセルフマト	8		9 人間関係	10 仕事／学校	11 地域での余暇活動	12 日中活動	13 制度・サービス活動
								(1)公共交通機関を 利用しての外出	(2)自動車運転					
大分類合計	計49点～5点							計35点～4点					計7点～1点	
総計	合計 91点～10点													

【考察】

令和7年度、自立訓練（生活訓練）事業所あゆみ（以下：あゆみ）の利用者に実施したSIMの結果で、最も平均の利得率が高かった項目は、他者との人間関係を築き、相互交流を維持しているかの評価を行う「**人間関係**」であった。次いで利得率が高かった項目は就労または就学しているかを評価する「**仕事/学校**」であった。

○「人間関係」の項目で改善が見られた要因

- ①あゆみという小グループ（6～7名）での取り組みにより仲間意識や関係が深まり、相談できる間柄に至った。
- ②人間関係を築く方法をあゆみの個別支援やSSTにより学ぶことができた。
- ③就労移行支援事業所なないろの職員やくらし班の職員にミーティング等で情報共有を行ったことで、あゆみ以外の職員にもサポートしてもらえたことが利用者にとっても人間関係を築く能力の向上につながった。
- ④料理やゲームなど、活動プログラムでの交流も人間関係を築く能力の向上につながった。

○「仕事/学校」で改善がみられた要因

- ①当事業所は多機能型事業所であり、仕事や訓練をされている方が多いため、それを見て「自分も頑張ろう」という前向きな思いになれた。
- ②「働こう会」という働くことについて考える活動にて就労継続の方法や重要性などを学ぶことができた。
- ③定期的な個別面談やケア会議により明確な目標を持てるようになり行動につながった。
- ④あゆみに通う事で生活が不規則だった方の生活リズムが整い、自分の居場所として捉えられた。
- ⑤支給金（対価）を受け取る喜びが就労意欲の継続につながった。

○改善率が低かった、制度やサービスの理解や選択を評価する「**制度・サービス活用**」では、今後の自立を見据えた支援や説明が計画的に行えていなかった事が要因と考えられる。また趣味や楽しみのための外出や地域での活動を評価する「**地域での余暇活動**」および、孤立することなく社会とのつながりのある日中活動が行えているかを評価する「**日中活動**」で改善率が低かった要因は、くらし・しごと応援センターはるかぜでの活動、他者との交流機会やお出かけの機会は提供しているものの、交流を伴う地域活動への積極的参加の機会創出や促しが充分に行えていなかったためと思われる。昨年度より小規模多機能型事業所きんめいでの「おでんの会」での交流企画を開始しているが、そのような地域参加の取り組みをさらに増やしていきたい。